

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100356		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	群馬県安中市原市3-6-20		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和3年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

献立や行事を職員の交代制にし、マンネリにならないようにしている。
週間予定表を作成し、一日に業務を詰め込まず、ゆとりある介護ができるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍以前は運営推進会議に家族の出席が半数以上あり、協力を得られていたが、現在は会議の開催もなく、利用者と家族の面会も難しくなっている。しかし、今回の外部評価における家族アンケートの回答は多く、利用者や事業所に対して変わらぬ関心が寄せられていることがわかった。かねてより家族と事業所の関係は良好で、職員は家族に感謝の気持ちをもって接しているが、そこには事業所が3ヶ月ごとに通信を作成し、家族の心配に応える為、毎月利用者の写真とお便りを郵送する等、家族との関係性が途切れない工夫を積み重ねてきた努力の結果といえる。また、前回の外部評価の結果を真摯に受け止め、居室内の排泄用品を人目につかぬようクローゼットにしまう等、利用者の尊厳に配慮した支援に取り組んでいる。今後も事業所と職員の真面目な姿勢に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他、ひばりの理念を独自に作成し職員会議で復唱している	職員会議で復唱し、理念について考える機会を設けている。常に自己研鑽しているか、古い知識のまま介護をしていないか等、具体的に示して指導し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、介護相談員や推進会議の地域の方の参加は中止している。つながりが継続するよう、区長さん、民生委員さんには会議資料と共にひばり通信を郵送している	コロナ禍により地域住民との交流の機会はないが、区長、民生委員に3ヶ月ごとにひばり通信を郵送し、つながりが途切れないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年推進会議や避難訓練に参加していただいているが、コロナ禍のため困難		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひばりの近況報告を郵送し、支払い時に見えた際に話を伺うようにしている	コロナ禍にあり、書面開催としている。行事、活動報告、事業所の現状報告、各回設けているテーマに沿った資料等を家族をはじめ通常の出席者に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議、介護相談員の参加はコロナ禍のため中止している。サービス調整会議へは状況に応じ参加している	法人の課長が市の担当者への相談、報告を通して連携を図っている。介護保険の更新代行は家族がしているが、連絡があればケアマネジャーが対応することもある。また、認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議の中で議題にし話し合いを行っている。	玄関は施錠している。スピーチロックについては、知識として拘束にあたる言葉を理解していても、実践の中で使ってしまった場合は、職員間で指摘し、職員会議でも注意喚起している。	玄関の施錠は身体拘束にあたるので、1日のうち開錠できる時間を作る工夫をしてみたいかがか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で虐待防止について学び、対応の難しいことは意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書説明し、一緒に確認していただき、それから契約を交わしている。改定の際も支払い時などで口頭や電話にて説明し、理解をいただいてから同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払い時などに話を伺い、ご意見があったものは苦情処理簿などで職員・本社で共有し改善に努めている	毎月利用料の支払いに訪れる家族に利用者の状況を伝え、意見を聞いている。利用者家族から職員の対応に指摘があり、日常のケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	正職員が毎日書いている業務日報の中で、思いや意見を聞き、職員会議などで反映している。パート職員にも時々書いてもらうようにしている	職員からの意見や提案、やってみたいこと、問題点を業務日報に記入し、職員間で共有する他、ひばり独自の用紙に気付いたことを書き入れ、ホーム長、課長が意見を拾い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や夜勤の回数、月2回の希望休以外の都合など個々に対応している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため参加を見送っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は戸惑いがないか日常の援助を通じて把握するように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やケアプラン作成時に家族に直接要望をお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の時から家族の悩みを聞き入れ、入居の順番になったら速やかに連絡している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴から、今まで行ってきたこと、今できること、一緒にできることを考え実践している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会の自粛をお願いしているが、リモート面会の実施や、月末の手紙に毎月の写真を同封している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため自粛していただいている	コロナ禍で面会に制限はあるが、ガラス越しに面会し、家族との関係性が途切れないよう工夫している。趣味のゴルフやアイドルの番組を観たり、書道や貼り絵の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや体操の他、参加されない人へは個別のレクリエーションや体操を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の了解が得られた方には、退所後の施設へお伺いしていたが、コロナ禍のため自粛中		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中での会話を大切にし、その中で本人の気持ちを伺うようにしている	利用者からは日常会話の中に込められた真意から意向を把握している。介護計画の更新時には心配事があるかどうか、また、家族にも暮らしに要望があるかどうかを尋ね意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所が決まった際にご家族やご本人に詳しく教えていただき支援に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートや口頭で伝達を行い、確認後は印鑑を押してもらい伝わり漏れないようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に課題について話し合い、本人や家族の意向も反映しプランを立てている	毎月ケアマネジャーがモニタリングをし、職員会議で職員からの意見を拾い上げ介護計画に反映させている。計画が変わっても、計画に沿った日々のケア記録となるよう職員に理解を促している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や特変など、ケア記録等に記入している。ケアの見直しについては職員会議にて意見を出し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて対応策を話し合い、その都度ケアの方針を決めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長さん、民生委員さんには会議資料やひばり通信を送っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認や、医療連携の話を見せていただき、本人や家族の望む医療が受けられるようにしている	かかりつけ医の選択ができることを説明している。現在は月2回協力医の往診があり、処方される薬を取りに行っている。歯科は必要に応じて月2回程度の訪問診療を受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携として毎週来ている訪問看護師とは、連携ノートを活用し情報共有に努め、特変時は随時連絡し指示を仰いでいる。往診時には極力同席してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍のため入院中は電話にて経過を伺い、退院の許可が出たら速やかに対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	支払い時や手紙などで体調の変化をお伝えし、看取り開始時には看護師、担当課長同席にて十分説明をしている	看取りの事例もあり、利用者、家族に希望がある場合は、話し合いと説明を段階的に行い、協力医の判断を仰ぎ、医療と連携の下看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種マニュアルがあり、職員会議で定期的に確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定避難訓練は毎月、夜間想定避難訓練は年1回行っている	年2回の避難訓練と毎月自主訓練を実施している。ハザードマップで災害地域でないことを確認している。備品としてアルファ米、缶詰、えいようかん、水等を2日分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を踏まえその人に合った声掛けを見つめるようにしている	トイレ誘導の際は小さな声で声かけをし、入浴が異性介助になる場合は羞恥心に配慮している。プライバシーの保護に努め、仕事中は職員が介護に徹し、利用者を優先する支援に取り組んでいる。	日常的に職員の声の大きさに配慮し、耳元で尋ねる等の工夫を試み、利用者のプライバシー保護に努める取り組みをしてみたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立を作る時に食べたいものの要望を聞いたり、おやつを選んでいただくような機会を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のリズムを尊重し、場合によってはその日の業務を変えて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできない方は介助し、行事によっては化粧やマニキュアを塗ってもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が時期のものを取り入れ交代で献立を作り、利用者の要望も取り入れている。おせちやクリスマスなど行事の献立も取り入れている	週3日は届いた食材で職員が手作りしている。献立はスーパーのちらし等を見て利用者がリクエストしたり、旬の食材を使い、時季のイベントに合わせた食事を提供している。飲み物の選択もできる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をその都度記入し、トータル量も把握できるようにしている。個人の咀嚼嚥下能力に応じ形態を変えたり、トロミ剤を使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできない方は介助し、ケアの難しい方、本人・家族からの希望がある方は歯科往診を受けて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導の他、排尿回数が多い方、量が多い方は排泄表を参考に適宜誘導を行っている	日中は排泄チェック表を見ながらトイレ誘導し、夜間は利用者によっておむつを使用している。また、利用者の状態によってパットの種類を変える等、柔軟な対応で自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には乳製品、昼食時はもち麦ご飯を提供し工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週6日入浴日を設け、原則1日3人までとし、その日の体調や気分を尊重、しゆっくり入れるよう配慮している	月～土曜日を入浴日とし、1日3名を目安に、その日に声かけをし、入浴する利用者を決めている。拒否があった場合は日を改めて声かけをしている。時間をかけて入浴してもらっている。	入浴予定外の利用者に声かけをするのは難しいが、いつでも入浴できることを情報として提供し、入浴の選択を利用者ができるよう取り組んでみてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に合わせて着床・離床時間を調整している。豆電球を好まない方にはセンサーライトを取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診結果、薬情報、看護連携ノートに目を通し、確認印を押して伝え漏れを防いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を踏まえてお手伝いをさせていただく方や、それまでの趣味を楽しんで頂けるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため家族との外出を自粛していた。職員とのドライブは定期的に行っている	コロナ禍にあり外出が難しくなっているが、天気の良い日には玄関前に出てお茶飲みをしたり、月1回ドライブに行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお持ちになっている方はいないが、要望があれば家族に許可をいただき所持していただくことも可能		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでも電話していただける。ご家族様からの電話もいつでも取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを定期的に貼り替えている	感染防止の為、1時間毎に15分程食堂の窓を開けたり、おむつ交換後に換気を心がけている。共用空間には日めくりカレンダー、時計、季節がわかる物を置き、大人の空間になる配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー席も用意し、活用している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムなど思い出のものを持ち込んでいただいている	家具、寝具、テレビ等の持込みと韓流スターの写真の他お気に入りの写真が飾ってある。排泄用品は人目につかないようクローゼットにしまい、いつでも居室に戻れるよう空調温度を管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など掲示を大きくしている		